

医学研究実施について

当院では下記の研究を実施しております。この研究は水戸協同病院倫理委員会で審査され、病院長の承認を受けて行われます。研究の対象となる方(または代理人の方)で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に試料や情報を利用することをご了解できない場合は、お手数ですが下記の連絡先までお申し出下さい。

ただし、対象となることを希望されないご連絡が、研究期間以降になった場合には、研究に使用される可能性があることをご了承下さい。同意の有無が今後の治療などに影響することはありません。

【研究課題】

「胸郭出口症候群の診断における MRI の有用性の検討」

【研究計画の概要】

○目的

近年、野球に代表されるオーバーヘッドスポーツにおける胸郭出口症候群(thoracic outlet syndrome; TOS)の存在が注目され、手術的な治療による有効性が示されるようになりました。しかし、TOSは症状が多彩でその病態はいまだ議論の最中にあります。

TOSの画像検査として、血管や神経の狭窄部位を視覚化するために3D-CT angiography, 3D-MR angiography, 腕神経叢造影および血管造影といった検査が行われてきましたが、被曝や造影剤使用といった問題が考慮されます。当院では、これまでに脳血管系の描出で知られるMRIにおける最大値投射法(maximum intensity projection; MIP)を応用し、TOS診断においても血管系の描出に優れていることを報告してきました^{1,2)}。

本研究では、MIPにて得られた画像とプロトン強調矢状断像から血管系に加え神経束の評価も行います。さらに鎖骨下動脈(Subclavian Artery; SCA), 鎖骨下静脈(Subclavian Vein; SCV), 神経束それぞれの狭窄程度を分類し、狭窄率を算出することで、TOS診断におけるMRI-MIP画像の有用性を検討することを目的とします。

○研究期間

倫理審査委員会承認後～2023年12月31日まで

○対象となる方

2014年以降、臨床的にTOSを疑われ当院で本法を施行した患者さん。

○研究に利用する試料、情報

患者さんの診療録や画像検査結果、手術記録などから情報を収集し、TOS診断におけるMRI-MIP画像の有用性を検討します。

試料・情報の項目:年齢、性別、診療録、検査・画像データ、手術記録、アンケート結果等

○倫理的事項

取得された情報は、厳重な管理のもとに分析・検討されます。本研究に使用する情報を第三者へ提供することはありません。

本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

○その他

本研究は茨城県厚生連 総合病院水戸協同病院で施行します。患者さんに対して本研究に参加することに伴う新たな費用は発生せず、逆に謝金などありません。

【問い合わせ先】

水戸地域医療教育センター・水戸協同病院 整形外科

研究責任者: 万本健生

電話:029-231-2371(代)